

グラフときがわ

写真でときがわの「今」をお伝えする“グラフときがわ”。珍しい情報や写真は☎65-0401 広報担当までお寄せください。

玉川ジュニアバレー、 6年ぶりの県大会出場！

玉川JVC（バレーボール）が、第9回ミカサ杯争奪埼玉県スポーツ少年団バレーボール交流大会兼第21回全国スポーツ少年団バレーボール交流大会（男女混合の部）において、県大会出場を果たしました。指導者代表の新井さんは「悔しい思いもたくさんしましたが、皆で力を合わせて、今年度最後の公式戦で再び大きな舞台に立つことが出来ました。ジュニアバレーを通じて培った経験を活かして、次へのステップに繋げてもらいたいと思います」と話してくれました。県大会一回戦突破はなりませんでしたが、今回で得た経験を活かし、さらなる活躍が期待されます。



玉川JVC（バレーボールスポーツ少年団）
活動日時 毎週(土)・(日) 9時～12時
活動場所 玉川トレーニングセンター
代表・監督 新井利文（65-2173）
保護者代表 山口美喜
体験・見学も随時受け付けています。

玉川JVCの皆さん。

写真説明

「この経験を町に活かして」 能登半島での被災経験を語る

中島努さん（大字玉川）夫妻は、観光旅行中に、石川県穴水町で被災されました。その時の経験を、町民の皆様知ってもらいたいとのことで、克明にお話してくださいました。

「私が道の駅にいた時に、緊急地震速報が鳴りました。突き上げるような揺れの後、震度6強の強い横揺れがありました。妻は転倒し、外のバスなどは1m程跳ねて、民家は倒壊。その後、大津波警報の防災無線が聞こえ、バスは高台へ避難して行きました。私も自転車で避難し、最終的に総合病院へ避難。そこでは、電気は利用できましたが、断水でトイレが使えず、皆ビニール袋に入れて処理するが、捨てる場所もないので溜まり、ニオイがフロアに充満していました。避難後も余震が多く、何度も緊急地震速報が鳴り、泣いている子どももいました。避難フロアではプライバシーが保たれないため、落ち着かず2時間しか寝られませんでした。

2日目には携帯電話が繋がらなくなりました。特に困ったのは断水で、手も洗えず衛生面の

不安が強かったです。近隣のドラッグストアも物が売られておらず、避難物資を待つだけ。病院は自家発電ができたので暖房が使えましたが、他の避難所では寒さをしのげず病院に移動してきた人も多かったです。3日目に金沢市に移動し、やっと食料品を購入できました。ガソリンはレギュラーがなく、販売はハイオク10%のみ。その後、松本市を経由し埼玉県に戻ることができました。この経験から、避難所には、生活用水、食料、歯ブラシや簡易トイレ等の衛生用品、シート、ストーブ、ライト等があってほしいと思いました。この実経験を、町や町民の皆さんに伝え、活かしてもらいたいと思っています」



今回の地震では、ときがわ町からも職員を派遣し、現地で避難所の運営等を行いました。

派遣された職員が撮影した、七尾市の様子。

写真説明

小学生が自ら呼びかけ！ 「見守りのお願い」放送します

児童が下校する時間に流れる見守り放送は、日頃から見守り活動をしていただいている地域の皆さまに感謝の意を込めて、小学生自身の声で放送しています。今回は、玉川小学校の児童に録音をしていただきました。録音した小澤心太さん（6年生）は、「いつも聞いている放送を自分が実際にやる事ができて、とても楽しかったです」との感想を寄せてくれました。小澤さんによる放送は、3月26日まで放送されます。



録音してくれた小澤さん。

写真説明

比企全体の広報力向上へ！ 近隣自治体の広報担当が交流

1月24日(水)、ときがわ町の広報担当の呼びかけで、東松山市、滑川町、嵐山町、小川町、川島町、吉見町、鳩山町、東秩父村、比企広域市町村圏組合の各広報担当が集結しました。交流会では、カメラが得意な滑川町の担当が講師となり、研修を実施。その後、活発な意見交換を行い、それぞれの広報をお互いにより良いものにしていこうと決意しました。



一堂に会した広報担当。ときがわ町からは私、保坂が参加しました（後列右から3人目）。

写真説明

あなたの知識・経験を活かしてみよう

健康
維持

仲間
づくり

生き
がい

会 員 募 集

心豊かなシニア生活を！

シルバー人材センターでは一緒に働く仲間を募集しています。町内在住で原則60歳以上の働く意欲のある方ならどなたでも入会できます。まずはお気軽にお問い合わせください。

ときがわ町シルバー人材センター

比企郡ときがわ町大字関堀162-1 ☎66-0220